

平成 27 年度通常(第 1 回)理事会議事録

日 時： 平成 27 年 6 月 27 日（土） 14：30～15：30

場 所： 岸記念体育館 1 階 101 会議室

出席理事：(敬称略、順不同)

河野博文、森山雄一、中川千鶴子、鈴木修、斎藤渉、坂谷定生、平松隆、中澤信夫、川北達也、天辻康裕、相澤孝司、餅啓一、末木創造、森信和、高間博之、山本嘉一、岡村勝美、剥岩政次

以上 18 名

出席監事：斎藤威、上野保

以上 2 名

オブザーバー：横田昌訓総務委員、柳澤康信広報委員長、永井真美環境委員長、大村雅一ルール副委員長、名方俊介ワンデザイン計測委員長、戸張房子国際委員長、小山泰彦東京オリンピック準備委員会副委員長、豊崎謙広報委員

議事の経過及び結果

(定足数の確認)

理事 27 名、出席者 18 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

(議長による開会宣言)

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、平成 27 年度通常（第 1 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を鈴木修専務理事に委任した。

(議事録署名人)

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、中澤信夫、剥岩政次の両理事が任命された。

河野会長から、連盟が後援する大会等の定義及び連盟内審査手続き等の審議をお願いしたいとの挨拶があった。

<審議事項>

1) 後援の扱いについて

横田総務委員から資料に基づき、連盟が公認、主催・共同主催及び後援を行う大会等の定義及び連盟内審査手続き（運用基準）について説明があった。

改正の趣旨は、「レース運営規則」においては、全日本選手権大会における「共同主催」、「公認」について規定しているものの、「後援」については規定されていない。従前から全日本選手権以外のレースについての「後援申請」は、レース委員会において審査して

きたが、ここ数年「普及」を目的として JSAF メンバー以外の参加者を認める大会も申請されている状況にある。このような状況の中、現在「レース運営規則」に規定されていない「国内大会」及び「国際大会」への「公認」、「共同主催」、「後援」についての申請が多数発生していることから、新たにレース委員会、総務委員会において、「国内大会」及び「国際大会」への「公認」「共同主催」、「後援」についての審査等について手順を定め、これにより、連盟「後援」事業に関する JSAF への申請手続きのスピードアップを図る。また、前回理事会協議事項で指摘された「150 マイルを超えるロングディスタンスレース」は、主催団体より申請があり、連盟が特別に認めた大会とした。さらに、後援申請条件として原則として 3 年以上継続的に開催している大会とした。後援申請においては運用基準に基づいて理事会に提案する前に総務委員会で検討するとの発言があった。

満場一致で承認された。

2) 第 70 回国体感謝状

横田総務委員から資料に基づき、第 70 回国民体育大会セーリング競技感謝状について説明があった。

国体委員会の推薦に基づき、和歌山マリーナシティ株式会社、海南市漁業協同組合、雑賀崎漁業協同組合、田野浦漁業協同組合、和歌浦漁業協同組合の 5 団体に、第 70 回国民体育大会開催協力に対する感謝状を贈呈するとの発言があった。

満場一致で承認された。

<協議事項>

1) JSAF アスリート委員会設置の件

横田総務委員から資料に基づき、JSAF アスリート委員会設置の件について提案があった。

前回理事会で、河野会長から JSAF アスリート委員会の設置を総務委員会で検討していただきたい要望があった。委員会設置の趣旨は、JOC は平成元年に選手会、平成 11 年にアスリート委員会（現・アスリート専門部会）を設置し、アスリート自身が選手経験の立場から、オリンピックムーブメント推進、選手強化事業支援活動を推進している。この間、アスリートを取り巻く環境変化も変化し、社会からアスリートに問われる課題も多岐にわたる中で、アスリートが広く日本スポーツ界の発展や、次の世代の子供たちのために取り組む活動を推進中である。その橋渡し役として、アスリート委員会の設置、活動の開始が急務であり、JOC からも委員会設置の要請があることから、JSAF としてもアスリート委員会を設置するとの発言があった。

河野会長から、アスリート委員会設置は JOC からの要請もあり、連盟でも検討していただきたい。ISAF に現存するアスリート委員会や JOC アスリート委員会等を研究して、理事会へ諮りたいとの発言があった。

鈴木専務理事から、次回理事会へ「アスリート委員会」設置について審議とする。委員人選や構成ならびに活動については、ISAF ならびに JOC アスリート委員会を調査して考慮するとの発言があった。

<報告事項>

1) 2020 東京オリンピック・パラリンピックセーリング競技会場について

小山東京オリンピック準備副委員長から、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催地は国際的にも評価が高かった江の島に決定した。今後は神奈川県への応援体制を整える。また、千葉県ならびに愛知県の関係者各位に感謝の意を表するとの発言があった。

平松理事から、日本代表チームの愛称と絵画募集イベントの概要について報告があった。愛称・絵画募集の期間は平成 27 年 7 月 20 日～8 月 31 日、全国の小・中学校及び全国の主要マリーナに募集内容を告知する。ECC からの協賛金を得て、広告代理店を通して展開するとの発言があった。

2) オリンピック強化委員会報告

斎藤常務理事から資料に基づき、オリンピック強化委員会報告があった。

ISAF ワールドで国枠を獲得した RSX 級男子において、富澤慎選手がリオデジャネイロオリンピック代表選手に内定済である。470 級男女は国枠獲得済で、日本代表は 6/27～7/4 開催の 470 級欧州選手権で選出される。また、他種目のリオ・オリンピック国枠獲得に向けて、クラス枠獲得と日本代表選手選考が行われる。また、フィン級においては東京オリンピックへ選手育成していく予定である。49FX は現在 3 チームが活動しているとの発言があった。

3) ISAF コミティーメンバー（障害者セーリング委員会）推薦の件

鈴木専務理事から資料に基づき、ISAF コミティーメンバー（障害者セーリング委員会）推薦について報告があった。ISAF コミティーメンバー（障害者セーリング委員会）に須藤正和氏を推薦する。日本障害者セーリング協会推薦及び JSAF 国際委員会での費用負担等も確認しているとの発言があった。

戸張国際委員長から、セーリングがパラリンピックから外れたことを受けて、ISAF から日本からのコミティーメンバーの要請があった。推薦手続において、理事会事後承認となったが理解していただきたいとの発言があった。

4) 評議員選定委員会結果

鈴木専務理事から資料に基づき、評議員選定委員会の結果について報告があった。

埼玉県セーリング連盟の谷評議員、長野県セーリング連盟の笠原評議員、千葉県セーリング連盟の伊藤評議員の3名の補充評議員につき、評議員選定委員会で選任されたとの発言があった。

5) 関西ワールドマスタースゲームズ 2021 準備委員会設立の件

横田総務委員から資料に基づき、関西ワールドマスタースゲームズ 2021 について報告があった。

関西ワールドマスタースゲームズ 2021 におけるセーリング競技開催へ向けて、JSAF として準備委員会を設立し、開催決定へ向けた活動を開始したい。当面の準備委員会としては、2016 年 10 月に予定している開催競技の決定へ向けた JSAF 内コンセンサス作りと、組織委員会他関係諸団体との連絡調整に重点を置くこととする。準備委員会設立等は、当該中央競技団体への説明会後に検討するとの発言があった。

6) JSAF 主催者保険の見直しの件

横田総務委員から資料に基づき、JSAF 主催者保険の見直しについて報告があった。

公益財団法人スポーツ安全協会が提供する「スポーツ・文化法人責任保険」が、現行の JSAF 主催者保険より保険料が廉価であり、JSAF 財政健全化に資するので、本保険への転換について、総務委員会にて検討を開始した。平成 28 年度以降に、現行の JSAF 主催者保険から「スポーツ・文化法人責任保険」へ切り替える予定とする。これにより、損害保険でのカバーは概ね完了すると思われる。この対策と安全・危機管理 WG 検討事前対策の一体的推進により、JSAF 主催レースに対する早期の安全対策の充実を図りたい。また、従来の主催者保険との相違を FAQ 形式で検討して理事会へ提案するとの発言があった。

7) レース委員会報告

川上レース委員長から資料に基づき、2015 年度 JSAF 公認申請等進捗状況について、現在まで遅滞なく審査を進めているとの報告があった。

坂谷専務理事から、タモリカップ富山大会を後援承認されているが、公示内容に問題がある。レース外洋小委員会と調整はしていただいたのか。主催者保険は JSAF 主催者保険外洋レースも付帯しているのか心配である。また、普及レースとして後援しているが、会員増強の効果が表れていないとの発言があった。

河野会長から、セーリングイベントして JSAF が後援するに価値はある。JSAF として参加艇及び参加者へエントリーリスト等から入会募集をするなどの方法を考慮すべき

との発言があった。

川上委員長から、会員増強のための後援意義等は総務委員会経由、理事会で検討いただきたいとの発言があった。

鈴木専務理事から、オープンレースの在り方を再度検討する必要があるとの発言があった。

8) ルール委員会報告

大村ルール副委員長から資料に基づき、大会のインターナショナル・ジュリーの構成について報告があった。

2015 国際 420 ワールドならびに 2015 アジアウィンドサーフィン選手権の 2 大会につき、国内で開催される国際大会における IJ メンバーについて、各大会の主催団体からジュリーを選任し構成したい旨、申請があったので承認したとの発言があった。

9) 平成 26 年度メンバー登録数 (5 月 31 日)

鈴木専務理事から資料に基づき、JSAF メンバー登録数実績について報告があった。5 月 31 日末現在でメンバー登録合計 4,875 名である。本年度から稼働させた会員新システムの手続きで不明な点は、JSAF 事務局または JSAF 総務委員会で対応するとの発言があった。

10) 平成 27 年度臨時第 1 回理事会議事録 (案)

鈴木専務理事から資料に基づき、平成 27 年度臨時第 1 回理事会議事録 (案) について報告があった。

11) その他

- ① 鈴木専務理事から、バヌアツ寄付金送金について報告があった。戸張国際委員長から、寄付金約 1500 ドル送金し旨を連絡したところ、バヌアツセーリング協会から感謝の意を表されたとの発言があった。
- ② 鈴木専務理事から、JSAF メンバー保険支払いについて報告があった。関東スナイプ選手権での甲斐氏の傷害保険は満額支払われたとの報告があった。
- ③ 鈴木専務理事から資料に基づき、「JAL ネクストアスリート・マイルプロジェクト」の案内と寄付のお願いがあった。
- ④ 鈴木専務理事から資料に基づき、京都府セーリング連盟会長に岡田栄三氏、外洋三崎会長に新田肇氏が就任した報告があった。
- ⑤ 中澤理事から、ロシアで開催するナイションズカップ・グランドファイナルに月光チーム 5 名で遠征するとの報告があった。

平成 27 年度通常 (第 1 回) 理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 27 年 6 月 27 日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 中 澤 信 夫

議事録署名人 理 事 剥 岩 政 次

副 会 長 森 山 雄 一

副 会 長 中 川 千 鶴 子

専 務 理 事 鈴 木 修

常 務 理 事 斎 藤 涉

常 務 理 事 坂 谷 定 生

監 事 斉 藤 威

監 事 上 野 保